

令和5年度 大阪府立交野支援学校四條畷校 第1回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立交野支援学校四條畷校
准校長名	篠川 一樹

開催日時	令和5年6月 21日(水)
開催場所	本校 軽作業室
出席者(委員)	高塚 良則(会長)、加藤 美朗(委員)、北口 信二(委員) 坪井 安嗣(委員)、坂田 雅子(委員)
出席者(学校)	篠川 一樹(准校長) 目良 孝(課長補佐) 溝部 晃輔(教頭) 村上 智則(首席・高等部主事) 竹田 良信(首席) 筒井 大輔(中学部主事)
傍聴者	なし
協議資料	下記議題関係資料及び意見書
備考	欠席 杉本 匡子(委員)

議題等(次第順)	
<p>(1) 准校長挨拶</p> <p>(2) 「学校運営協議会委員」および「事務局」自己紹介</p> <p>(3) 学校運営協議会会長の選出</p> <p>(4) 「学校運営協議会実施要項」「学校協議会傍聴に関する要領」の確認</p> <p>(5) 「令和5年度学校経営計画及び学校評価」について</p> <p>(6) 学校教育自己診断アンケートについて</p> <p>(7) 教科書選定について</p>	
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)	
<p>(1) 准校長挨拶</p> <p>(2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介</p> <p>(3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出</p> <p>学校運営協議会実施要項の第9条に則り、会長に元大阪府立学校長 高塚 良則様が立候補、全員一致で信任。</p> <p>(4) 「学校運営協議会実施要項」「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認</p> <p>(5) 「令和5年度学校経営計画及び学校評価」について</p> <p>Ⅰ 希望する進路を実現できる力の育成について</p> <p>職業教育のみに偏ることなく、すべての生徒にとってキャリア発達を促す学習を学校として実践していくため、さらに地域に出る取り組みを予定している。地域との連携では、外部講師による15回以上の授業をリモートも含めて計画している。グリーンコース以外の生徒の活動の機会を広げる観点から、近隣の小学校や神社に加えて公園での清掃活動や砂公民館での農園芸商品の販売の定例化に取り組んでいく。公民館での販売については、「自治会だより」にも掲載していただき広く周知に努めている。学校行事や生徒会活動では、「きょうだい学年」において、キャリアプランニングマトリクスの「かかわる力」「はたらく力」の系統性を意識した取り組みを実施予定。加えて、体育祭で異年齢の係分担をつくることも検討している。</p>	

2 安全安心のための校内体制の整備について

生徒一人ひとりの人権が守られる教育環境を保持するために、悉皆の人権研修を 2 回計画し、夏季休業中に 1 回目を実施予定。また、個人情報のみヒヤリハット・インシデントの報告体制を構築し、誤配付や漏洩事案を防止する。集約結果を年度末に報告予定。生徒を対象とした取り組みでは、「SNS の正しい使い方指導プログラム」と、心と身体の学習指導のためのマトリクスをプロジェクトチームで作成して指導を継続することで、互いを思いやる気持ちを持ち、正しい人間関係が築けることをめざす。また、身体 の健康と精神の安定のために、朝のランニングや運動週間の設定に加え、学期に 1 度の外部人材 (PT、OT、ST、CP) を活用し、個別の自立活動課題に取組み、年度末に事例を共有する予定。さらに、防犯防災マニュアルや大地震対応マニュアルの見直しに加え、登下校時の対応マニュアルの検討と作成を、ソリューションシステムの活用とあわせて進めたい。今後設置予定の、通学バスの降ろし忘れ防止システムについては、次回以降に報告する。

3 教員の専門性の向上と指導力の向上

「主体的で対話的で深い学び」の授業を充実させるために、授業力向上 PT を立ち上げ、大阪府教育センターが実施しているパッケージ研修を活用しながら、研究授業と研究協議や研修を実施予定。また、授業の様子をアーカイブ化し、指導案、教材等をデータ化し、初任者や経験の浅い教員が活用できるように進めていく。研究授業については、地域の教員への公開やホームページへの掲載も予定している。加えて、ICT の活用についても授業力向上 PT で検討を進める予定。

4 開かれた学校づくり・センター的機能の発揮

文部科学省のインクルーシブ教育推進や地域の支援教育の充実と通級指導教室の拡充にあわせて、支援学校においてもセンター的機能の充実が期待されている。質問・相談等も増えるのではないかと考えている。そのような中、今年度本校は、大阪府の地域支援整備事業の北河内ブロック幹事校を務めることとなった。新たな取り組みとしては、四條畷市と連携し、事例検討会等で得られた成功事例を他市へも発信することを考えている。また、学校と家庭との情報伝達性の向上のために、フォーム作成ツールを活用した欠席連絡、配付文書の電子データ化、ホームページでの授業実践・教材紹介などを進めたい。

5 校務の効率化による働き方改革の推進

働き方改革の推進の点で、既存の課題解決型プロジェクトチームに加え、新たに立ち上げて、課題解決のための立案と具現化を進めていきたい。また、非効率な業務負担を見直すために、先にも上げた学校と家庭との情報伝達性向上のための ICT の活用、定時退庁日の設定と励行などを進めていく。

6 その他

開かれた学校教育づくりやキャリア教育に関連して、生涯教育という観点を大切にしたい。学校教育と社会教育が両輪となって、余暇活動や卒業後の学びの充実につなげたいと考えている。

(6) 学校教育自己診断アンケートについて

11 月下旬にアンケートを実施予定。経年変化を見るためにも、昨年度と同様の内容での実施予定。今回から、Google フォームを活用し、パソコンやスマートフォンで回答できるように移行していく。

(7) 教科書選定について

選定教科書の報告及び選定方法等の説明。

中学部は、各教科担当で選定している。学習内容や発達段階に応じたグループごとに選定している。寝屋川支援学校小学部の選定教科書と重複しないように情報を取得している。

高等部の選定は、教科と学年で相談しながら進めている。大きく 3 つのグループに分けた中で、教科的な学習ができるグループを対象に国語、数学を選定。家庭科については、2 つのグループで選定している。教科書を選定していないグループについては、担当者で別教材を選んだり作成したりしている。

委員からの意見の概要

高塚会長：

学校経営計画については、保護者をはじめ地域の方々にも支援学校として何に取り組んでいるのかを理解していただくためには、PTA の集まり等で説明や意見を聞く場を設けたり、視点や言葉の遣い方などを考えたりする必要がある。コロナ禍以前の活動の再開や、コロナ禍で培った ICT 教育の経験を生かすことについては、学校として検証したうえで学校経営計画に反映させることが大切。

キャリア教育をすべての生徒を対象として充実させるという考えは重要である。学校経営計画の評価指数については、単に回数等だけではなく、体験を通じた生徒たちの成長や変化などを外部評価や視覚化を考えてはどうか。リーディングスタッフやコーディネーターの取組みについては、地域の支援教育力を高めることが、卒業後も含めて本校の生徒たちにとっても還元されるという観点で管理職からもリーダーシップを持って進める必要がある。

学校教育自己診断アンケートについては、学校経営計画達成の評価指標となるよう、質問項目には評価指標となるべき内容が中心となるべきである。生徒への質問では、理解しやすい内容や言葉遣いを考える必要がある。また、連絡帳については、生徒自身が、学習の様子や感想などを書くように取組むことで、語彙力が増え、気持ちを表出できるようになり、読んだ教員も生徒への新たな気づきも生まれるのではないかと思う。障がいのある子どもたちのコミュニケーションの力を伸ばすためには、特定の教科の中だけではなく、すべての教育の中で取組むべきだと考える。

教科書選定については、支援学校では 9 条本も含めて、生徒の実態に合わせたものを選ぶことができるものの、活用できていないという現状もあるので、本当に必要なものを選定するという流れになってきている。

加藤副会長：

学校経営計画にある、希望する進路の実現といった点について、生徒のスキルの向上のために、より多くの生徒に販売などの活動の機会を提供しようとすると一人ひとりの活動の機会が減ってしまうのではと想像している。支援度の高い生徒の取組みについて、校内の活動での工夫などもあれば教えていただきたい。

(学校からの回答:校内で練習する機会は設けてはいるが、活動回数の確保の点では課題であると。他の教科との兼ね合いもあるので、カリキュラムやシラバスも含めて考えていきたい。校内校外問わず、販売活動の目的は自分たちの製品を買ってもらって「ありがとう」と言ってもらえるのが大きな目的だと考えており、製品作りに携わった生徒は全員が販売の機会に参加できるようにしている。)

支援学校が特別支援教育のセンター的役割をもち、その機能を発揮するためにリーディングスタッフやコーディネーターが配置されていることについて、地域の先生方や保護者にはほとんど知られていないのではないかと想像している。就学支援委員会でも話題になることはなかった。また、児童発達支援事業所でも、事業所のスタッフや幼稚園や保育所の先生が支援教育のシステムについての知識がなかったことに驚いたことがある。自分たちが知っていることがあまり知られていないことがあるといった視点も大切。

北口委員：

自身の法人アンケートで、学齢期の保護者から学校では進路の相談にあまり乗ってくれない。福祉事業所の紹介においては、公平性を保つために一覧表を配付するのみとの記述があった。進路相談対応にも不満をもたれているようで、四條畷校では誰が担当しているのか? 2 点目は、授業のアーカイブ化について、効果的な活用方法を考えていれば教えてほしい。3 点目は、情報伝達性向上のためのシステム作りをどのような方向で考えているか。

(准校長:進路相談に関しては、本校では、そのような対応はないと考えている。進路の相談については、担任が窓口となり進路部や進路指導主事とともに相談にあたっている。アーカイブ化の有効活用については、スタートしてから経過を見ながら考えていきたい。手軽さを追求すること、研修のストックができればと考えている。シス

テム作りの出欠確認では連絡や閲覧のしやすさを求めている。いつでも、どこでも活用できるものになりたい。配付プリントについては、保護者が閲覧したうえで、取捨選択してプリントできればと考えている。）

坪井委員：

農業指導や販売活動では、地域のつながりの中でぜひ協力したいと考えている。

坂田委員：

リーディングスタッフやコーディネーターについて教えてほしい。そういった役割の教員がいることを今まで知らなかった。

（准校長：本校では、リーディングスタッフとコーディネーターを兼ねる教員を 2 人、校内支援担当のコーディネーターを 1 人配置し、地域の先生方からの相談に学校として応えるために、学校訪問をしたり、助言をしたりしている。最終的には、地域の支援力が向上し、地域の中ですべての子どもたちを育てていくことがインクルーシブ教育の目的となっている。）

坂田委員：

学校教育自己診断アンケートの内容について、自分の子どもの場合、生徒用アンケートで答えることができる質問はなかった。保護者から見た子どもの様子や担任から聞いた様子をもとに答えている。連絡帳については、子どもの言葉で授業の内容を書くようにすることで、友だち同士の理解が深まるだろうし、親としても授業の内容がより詳しく知ることができる点で嬉しいと思う。

教科書選定については、年度末に新しいものを持ち帰ったことがある。絵本を持ち帰ったこともあるが、自分の子どもにとっては、文字よりも音の出るおもちゃのほうがいいとも思う。文字を読んで理解することが難しいので、不要だなと思う気持ちもある。

次回の会議日程

日時	令和5年12月予定
会場	大阪府立交野支援学校四條畷校 会議室